

このページでは、避難生活での疑問や、除染・補償・賠償・賠償に対する質問にお答えします



あゆみ 佐藤安有美さん(関根・松塚)

(質問) 村に残してきた犬にえさをやるため自宅へ通っています。入居している借り上げ住宅では飼うことができません。避難先の福島市等で預かっただけの所があれば助かるのですが。

(回答) 被災しているペットについては、各種団体はじめ関係企業、全国各地の方々から物心両面にわたり温かいご支援をいただき、また多くのボランティアの皆さんの援助もいただいております。

- 動物の一時預かり先をお探しの方は、下記までご相談ください。
- ・福島県動物救護本部 ☎024-522-3921
  - ・相双保健福祉事務所 ☎0244-26-1351
  - ・かかりつけの動物病院
  - ・役場住民課住民係 ☎024-562-4241
- なお、預かっただく団体及び個人によっては、期間や場所、料金の有無等、条件の異なる場合があります。



齊藤京子さん(八木沢・芦原)

(質問) お盆期間や年末の特例宿泊に行きたいと思うのですが、山に近いこともあり家が湿気で傷みカビも発生していて泊まれません。時々換気や掃除に行くのですが状況を回復できずに困っています。

(回答) 東京電力では、宅地・建物・家財の賠償として、現在、財物賠償の手続きを進めており、建物の維持管理やリフォーム等にかかる費用の賠償は、この財物賠償の中に含まれています。

しかしながら村内に残している家屋の維持管理は大変難しく、多くの方が悩んでいます。

中でも、避難をしながら毎日換気を行うことは難しいので、カビの対策は本当に大変です。すでに実行されていることとは思いますが、晴れた日に十分な換気をしてください。除湿機の利用も効果があります。また、カビが発生しているところで掃除機を使うと、カビの胞子が排気で広がるので気をつけなければなりません。消毒用エタノールや市販のカビ取り剤などによる拭き取りが良いとされています。また、カビの発生を予防する商品もあるようです。商品の詳細についてはホームセンター等でお聞きいただければと思います。

「ご協力ありがとうございました」  
10月11日・15日  
村役場飯野出張所でお聞きしました

いいたてのおはなし 聞かせっかい



継子の栗拾い

栗拾いを行った時、姉様の糠袋は一生懸命拾っても、穴あいた袋だら溜まんねくて家さ帰らんねえんだ。妹の弁皿は、姉様の袋から落ちたの拾ってさっさと家さ帰っちゃったんだ。

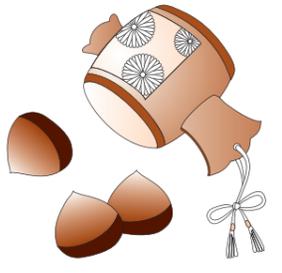
姉様は帰らんねえながら、今度向うに灯が見えたら、そこに行ってみんだ。お婆さんが、「泊めつから、泊まれ」って言うんだ。お婆さん栗拾いさ来たんだげんちよ、後お母様だから、俺は溜まんねえくて帰らんねえんだ」って言ったんだ。そしたら打ち出の小槌くれで、「これで栗出る、栗出ろって言うじど栗出つから」って言ったんだ。

朝、目を覚まして見たら、そこは母親のお墓のどごだったんだ。

その村さお祭りの芝居あったんだ。村芝居な。後お母様は自分の娘さきれいな着物着せでお祭りにやったんだ。姉様は打ち出の小槌で、「着物出る、着物出る」ってやったんだ。そしたら、今度着物出て、それを着て行ったんだ。そんだげんと、その姉様はお母様よりも妹よりも早く帰って来て風呂焚ぎしたんだ。

ほしたら、あつちでもこつちでも姉様を嫁さんに貰えで、嫁さんに貰えでって言うんだ。そのお母様は「糠袋でねえぐ弁皿の方だべ」って言ったら、「いや姉ちゃんの方だ」って言うんだ。結局糠袋は行いが良くて、良いとごさ嫁に貰われだげんちよも、弁皿は嫁さんに良いとごさ貰わんにえがったつう話。

「話者/齊藤マツヨさん(深谷) いいたて 民話の会発行「飯館むかしはなし」から要約」



誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ	親の氏名	行政区
菅野大地くん	仁・千春	比叢
渡邊凜生くん	健児・美沙紀	比叢
菅野蒼太くん	明洋・ひろみ	小宮
細川颯太くん	勉・尚美	伊丹沢
田邊来希くん	直孝・菜菜美	関沢
花井咲心ちゃん	準一郎・由貴	伊丹沢

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	行政区
須藤 遼真	比叢
岸 根 梓	茨城県

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
志田 セツ子	81	上飯樋
菅野 治	61	小宮
伊藤 隆三	62	前田
木幡 トヨ	87	草野
庄司 亀松	79	関沢
菅野 雄二	78	長泥

ご冥福をお祈り申し上げます

(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

3年半ぶりにカメラを片手に取材していると、当時を知っている皆さんから「あら、皆さんから「あら、広報に戻ったの?」「また写真撮りに来てな」などの嬉しい言葉をいただきました。初めて広報を作った時に取材した保育園児が今や小学3年生。縦にすくすく成長した姿と縦以外にすくすく(?)成長をしている自分：年月を感じてしまいました。▼広報の在り方や取材範囲も原発事故前と違うということを痛感。一方、多くの方々に支えられたいています。とも実感しています。▼村民の皆さんの思いと言葉が反映される「広報いいたて」目指して、仲間とともに頑張っていきます。どうぞよろしくお願いたします。(一)